

# 神奈川歯科大学・被災者支援プロジェクト

～ 第6回 本格支援までの情報収集および現地視察等・陸前高田市 ～

報告者：古川辰之（技工科）

## 【日程】

平成23年10月12日～10月14日

## 【参加者】1名

古川辰之（歯科技工士・附属病院 技工科）

## 【活動内容】

○陸前高田市・吉田歯科医院 歯科技工部門の支援

○陸前高田の被災地の状況を視察

○気仙沼の被災地の状況を視察

## 《第1日目：10/12》

午前7時に東京駅から東北新幹線で岩手県・一ノ関駅へ一ノ関から車両（レンタカー）で陸前高田へ昼12時に到着

一ノ関から陸前高田までの道りは約2時間、世界文化遺産でも有名な平泉がある一ノ関は美しい自然の広がる土地でした。この次期はちょうど稲刈りが終わり、稲を干している農家の方々がいました。



吉田歯科医院（仮設の歯科診療所）で午後1時から午後7時まで歯科技工の補助咬合床（入れ歯の土台作り）・入れ歯の研磨（最終的な仕上げ）・作業模型（製作の準備）の製作などを重点的に行いました。



この日は吉田先生のご自宅に宿泊させていただきました。

吉田先生のご自宅は陸前高田の高台にある団地でしたので、被害は少なかったようですが市内にある診療所は建物ごと津波ですべて流され、その場所に残っていたのはコンクリートの基礎のみの状態になったそうですが、なぜか1kmも離れた町中に吉田歯科医院と記されたスリッパが一つ、ぽつんと転がっていたそうです。

《第2日目：10/13》

午前9時から午後7時まで歯科技工の補助

初日に行った作業内容に加えて、入れ歯の修理なども多く、他の技工に手が回らない大変に忙しい状況でした。

この日は昼食後の限られた時間ではありましたが、陸前高田市の被災状況および復興状況の視察をしてきました。



ガレキなどは一箇所にまとめられ、大きなコンクリート建物以外は何も無いといった状況で閑散とした風景の連続でした。



陸前高田の消防署なども被害があり、今は陸前高田市で少し高台に位置する給食センターが仮設の消防署となっている状況でした。

この給食センターは震災の当日、一時避難場所として多くの方々がここで不安な夜を過ごされたそうです。



《第3日目：10/13》

午前9時午後1時まで歯科技工の補助

入れ歯の修理・咬合床（入れ歯の土台作り）・入れ歯の研磨（最終的な仕上げ）・クラウンの鑄造（銀歯の製作）など

この日に新しい鑄造機（金属を溶かし鑄込む機械）が入り、今までは遠心鑄造で対応していましたが、反転真空加圧鑄造方式で鑄造ができるようになり、鑄造精度の向上・時間短縮など高いレベルの歯科技工ができるようになりました。



午後は気仙沼の状況視察の為、お世話になった吉田先生、三日間寝食を共にしたボランティア活動をされている落語家さんに別れを告げ、気仙沼へ忙しいスケジュールにも関わらず、ボランティア活動のお話やご本業の落語についてのお話なども聞かせていただき、とても有意義な時間を過ごすことができました。



気仙沼は未だに震災の爪痕が生々しく残っていました。

ガレキなど多く道路などに散乱しており、通行するのもままならない状態でした。



漁港近くの道路は地盤沈下により海面と同じ高さになっており、潮位の高い時や雨や風の強い日には漁港付近は海水が浸水してしまうようで、海水の水溜りが所々にある状況でした。



#### 【まとめ】

今回は単独での支援活動でしたので、準備段階からいろいろと不安がありましたが、これまで、神奈川歯科大学・被災者支援プロジェクトで現地へ赴き、活動された先生方やメンバーの方々から多くのアドバイスをいただいていたので、微力ではあったと思いますが、現地ではスムーズに支援活動を行うことが出来ました。

このような貴重な機会を与えていただき、私自身も一医療人・一歯科技工士として、とても多くのことを学び良い経験になりました。

そして、東日本大震災で大切な人を失った方々、未だ遭遇できていない方々、現在も避難所生活を余儀なくされている方々、現地で懸命に復興活動に携っていらっしゃる行政や地域の方々はもとより、様々な形でボランティア活動されている多くの方々の思いを肌で感じ『生きる』という事の意味と、今回の活動を通して人と人との繋がり の大切さについて、身をもって深く考えさせられました。

最後に、陸前高田の1日も早い復興を心よりお祈りするとともに、ボランティア活動をされている多くの方々を温かく受け入れ、宿泊などいろいろお世話をしていただきました吉田先生と奥様への感謝の気持ちを胸に、みちのくの地を後にしました。